

## ディスコグラフィー掲載

### ディスコグラフィー 【2014No.14】 (HP 掲載)

分類 : CD

作曲家 : ヨハン・セバスチャン・バッハ他

曲名 : プレリュードとフーガ他

演奏 : 中田聖子

発売 : Klavi

No. : Verginal Album 2009 Spring



SEIKO NAKATA  
Virginal Album  
中田 聖子 ヴァージナル・アルバム  
2009 Spring

1-2. ヨハン・セバスチャン・バッハ (1685-1750)  
「プレリュードとフーガ」ハ長調 BWV845  
(『平均律クラヴィア集』第1巻 第1番)  
1. プレリュード 2. フーガ

3-5. ヘンリー・パーセル (1659頃-1695) : 組曲 ハ長調  
3. プレリュード 4. アルマンド 5. クーラントとサラバンド

6. ヘンリー・パーセル (1659頃-1695) : 「ラウンド 0」

「フィッツウィリアム・ヴァージナル・ブック」より

7. ウィリアム・バード(1539頃-1623) : ファンタジア  
8. 作者不詳 : パラフォストの夢  
9. ピータ・フィリップ (1560-1628) : アマリッリ

10. 作者不詳 : グリーン・スリーブス  
11. ヤン・ピーターソン・スヴェーリング(1562-1621) : トッカータ  
12. ヨハン・セバスチャン・バッハ(1685-1750) : フーガ ト短調 BWV.1000

概要 :

地元のホールで開催された「いにしへのひびきにのせて チェンバロコンサート ~J.S. バッハの響き~ 」と題して開催されたチェンバロとバロックヴァイオリンのコンサートに行き、ヴァージナルという古楽器に興味を持って買い求めてきたものです。

[http://audiokenkyu.sakura.ne.jp/?page\\_id=21](http://audiokenkyu.sakura.ne.jp/?page_id=21)

演奏者の解説によればヴァージナルという楽器は、ルネッサンスからバロックにかけてフランドル地方やイギリスで用いられた小型のチェンバロで、この演奏で使用されているものはミュゼラータイプのフレミッシュ・ヴァージナルと称されるものだそうです。以前に訪れたことのあるスイス・バーゼルの **Basel History Museum** では約 650 もの古楽器が陳列されていて、実際にどんなものかは多分その中で見たと思いますが、あまりにたくさんあって覚えていません。

**Basel History Museum** (Wikipedia 抜粋)

**The Music Museum of the Basel History Museum in the former Lohnhof prison houses Switzerland's largest collection of musical instruments.**

The Music Museum is a heritage site of national significance. It was opened in 2000 and presents five centuries of music history with three areas of emphasis: 650 instruments from the 16th to 20th Centuries; concerts, choral music and dance; parades, festivals and signals. Visitors can also hear how the instruments sound via a multimedia information system.

[https://www.basel.com/en/art\\_culture/hmb-museum-f%C3%BCr-musik-im-lohnhof](https://www.basel.com/en/art_culture/hmb-museum-f%C3%BCr-musik-im-lohnhof)

[http://en.wikipedia.org/wiki/Museums\\_in\\_Basel#mediaviewer/File:Historisches\\_Museum\\_Basel\\_-\\_2.jpg](http://en.wikipedia.org/wiki/Museums_in_Basel#mediaviewer/File:Historisches_Museum_Basel_-_2.jpg)



演奏に使われたヴァージナルというものはどのようなものか、検索した写真を上記に示していますが、CDには久保田氏製作の Ruckers タイプのフレミッシュ・ヴァージナ

ルというのが使われていると記載されており、以上の中に該当するものがあるかもしれません。

<http://www.kubota-cembalo.com/works/gallery01.html>

こういうものが日本にあって演奏する演奏家がおられるということは貴重だと思います。

EMT981 でこの CD を再生してみました。チェンバロを聴きなれた耳では、音は太目でチェンバロ特有の繊細さ、透明感が薄れたような印象ですが、じっくり聴きこんでいくと、フォルテピアノのような趣も感じられ、落ち着いた音色が好ましく感じられます。ヴァージナルというものはどんな音がするのか、それらによる音楽の表現がどのようなものかを知るために良い CD であると思われます。